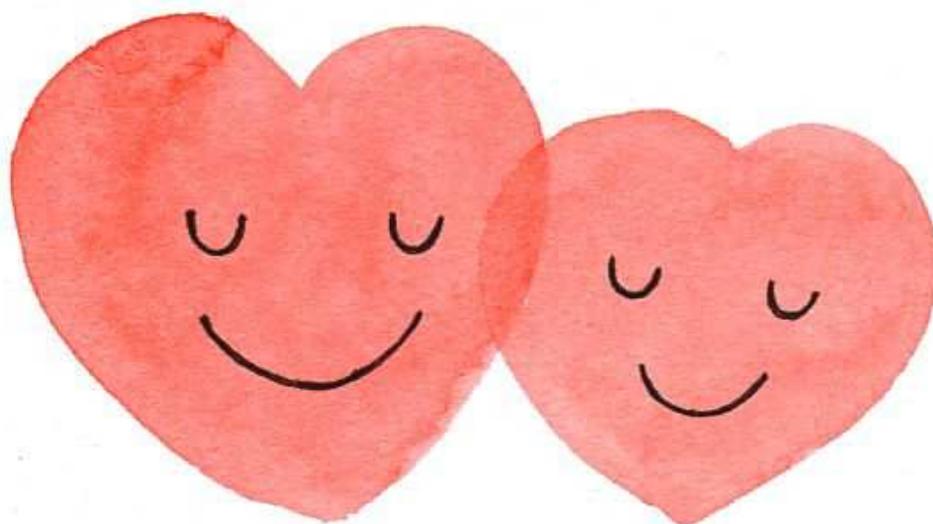


平成26年度

福祉の作文 しあわせの一行詩集



玉城町社会福祉協議会

目次 『福祉の作文』

特選

《小学生の部》

福祉について

下外城田小学校

四年

茂谷

珠希^{たまき} ・ 1

《中学生の部》

心のバリアフリー

玉城中学校

三年

中西

夢佳^{ゆめか} ・ 2

入選

《小学生の部》

ボランティア

田丸小学校

六年

浦くるみ ・ 4

福祉について

下外城田小学校

四年

堀江

咲良^{さくら} ・ 6

《中学生の部》

別と考えない事

玉城中学校

二年

俵

菜緒^{なほ} ・ 7

『しあわせの一行詩』 優秀作品

・ ・ 8

特選

『福祉について』

下外城田小学校 四年 茂谷 珠希

私のお母さんは、病院でかんご助手をしています。お母さんはいつも、「かん者さんは、色々な病気をかかえている。完全には治らない方でも、それ以上悪くならない様に、お医者さんやかんご士さん、そして私たちが、みんなで力を合わせて、かん者さんのお手伝いをしている。」と、言っています。

私は、「どうして治らない病気があるの」と思いました。お母さんは、「体のどこかが不自由でもなにもかも、しづらくなる。かん者さんの気持ちになって、何でも考えて、やさしくさせてもらいたい。」とも言っています。私は考えてみました。私の体は、手も足も、体中どこもいたるところもなく、目もよく見えるし、耳も聞こえます。友達とも話せるし、いっぱい遊べます。ごはんもおやつも好きなだけ食べられます。でも、体の不自由な人や病気は、そういうふうにはできないのかもしれないかもしれません。自分だったら、すぐくつらいだろうなと思います。もし私の目の前にそういう人がいたら、私もお母さん達のように、やさしくさせてもらいたいと思います。そんなことをいっぱい考えていたら、体の不自由な人だけでなく、自分のまわりの友達や家族、体が元気な人にでも、やさしくさせてもらうことが、大切なんじゃないかなあと思いました。それから私は、もう一つ、思っている事があります。日本や世界では色々な事でこまっている人達があります。たとえば日本では三年前に、東日本大

しんさいが起きました。今年の夏も、大雨で、広島県の多くの人がなくなったり、家を失ったりしました。そういう時に、自分から何か役に立ちたいと、ボランティア活動をする人がいます。今までできたことは、ぼ金をすることしか思いつかなかったけど、それでも人の役に立てることを少しでもやってみたいと思います。体の不自由な人や困っている人達が少しでも安心にくらせる様に、日本がなっていったら、すごくいいと思うので、そのために私ができることをやりたいなと思います。友達にいじわるをするのではなくて、笑顔がたえず仲良く学校でもすごしたいし、先生や大人の人いろいろなことを教えてもらってよりよいことをやって、みんながしあわせになればいいと思います。

福祉という言葉の意味や福祉のことは、まだまだわからないことが多いけど、大事なことは、人にやさしくすると言うことだと私は思っています。みんながしあわせにくらすには、みんながやさしい心を持って、毎日をくらすことが大切だと思います。すなおな気持ちで、これからもすごしていきたいです。



特選

『心のバリアフリー』

玉城中学校 三年 中西 夢佳

私はテレビで障害者用の駐車場についての特集をしているのを見たことがあります。せっかく障害者や妊娠中の女性のために駐車場があるのに健常者のマナーが悪くて使いたい時に使えないという内容でした。私が母と買い物に行った時、車いすマークの駐車場に若い男の人が車をとめていました。その時には他の車いすマークの駐車場があいていたのであとから来たお年寄りや車をとめることができただけ、もし他の駐車場もあいていなかったら、このお年寄りは遠いところにとめなくてはいけなくなってしまうと思うようになりました。

このようにみんなが不自由に感じないようにつくられた物が健常者のマナーで不自由に感じるのは、あつてはいけないことだと思います。他にも障害者の方が心のバリアを感じることは多いと思います。例えば障害者を持った人に迷惑をかけていなくても障害者のことを「変だ」とか「こわいな」とか思う心があるだけで心のバリアをはっているのだと思います。私は保育所の時や小学校の時に「夢工房たまき」に行ったことがあります。ここは障害者を持った人が活動しているところです。初めて障害者を持った人に会った時、私は腕がない人や自閉症の人、車いすに乗った人を見て「こわいな」と思ってしまった。でも、この人たちと一緒に物をつくったり、絵を書いたり、話したりしたらほとんど健常者と同じだということに気がつきました。

しやべったりした時にときどき話が通じないことがあったけどちやんと話せた時はすごくうれしくて楽しかったのを覚えています。家に帰るとき、私は初めに障害者のことを「変だ」や「こわい」と思ってしまったことをすごく後悔しました。ここにいる人たちは私にはできないこともちやんとできていました。それに体の一部が不自由でも毎日いろいろなことにチャレンジしていたのです。すごいなと思ったし、見習いたいと思いました。私の家の近くにも「夢工房たまき」とよく似た障害者施設があります。だから道で会ったりすることもたくさんあります。私はその時に普通にあいさつしたりするようにしています。これからも心のバリアを障害をもった人が感じないような生活ができるようになっていけばいいなと思います。

今、車いすマークの駐車場がつくられたり、音の鳴る信号機、道路や駅、階段などへの点字ブロックが作られたりと障害者の人が生活しやすいようになってきていると思います。でもまだ、音の鳴る信号機じゃなくて信号が赤なのか青なのかわからないだろうなと思うところがあったり、駅で電車の乗るところがわからないだろうなと思うところがあったりします。これからどんどんみんなが生活しやすいように改善されていったらいいなと思います。

私が障害者差別について一番思うことは、障害者の人が不自由を感じないようにするためには生活しやすくするためにバリアフリーの設備を増やすこと。それと障害をもった人を「変だ」などと思って差別する人がいなくなり、困っている人を助けら

れる人が増えることが必要だということです。私は今は設備を新しくつくったりすることはできません。だから今は自分が障害者の人を見た時、他の人とちがう目でみたりすることなく、みんな平等に接して差別しないようにしていきたいなと思いました。

差別には障害者差別の他にも身分差別や部落差別、人種・民族差別などいろいろな種類があります。それぞれ言われていることはちがうと思います。でも差別されている人がいるのは人のことを差別する気持ちを持って見ている人がいるということであり、どの差別でも同じです。一人一人がもつとやさしい心を持っていれば差別はなくなっていくと思います。私は人の気持ちを考えて行動できる心を持ち続けたいです。





入選

『ボランテイヤ』

田丸小学校 六年 浦 くるみ

私は初めて福祉体験をしました。まずお年よりの人といっしょにデイサービスで、玉入れやいろいろな遊びをしました。お年よりの方に、すごくいろいろな話をしてもらいました。お年よりの方は、私達のおばあちゃん、おじいちゃん、ひいおばあちゃん、ひいおじいちゃん世代の方々です。私は、はじめ、お年よりの方といっしょに話すことがはずかしくてぜんぜんできませんでした。でも、すごく気軽に話してくださいました。だから、私も気軽にどんどん、お年よりの方と話す事ができました。だから急にみんなちようもほぐれたし、すごくやさしいから、ついつつと長い間話していました。質問も気軽にしていたでいて、すごくうれしかったです。私は、こういうことをしたのが初めてだったので始めのうちは、すごくみんなちようしましたが、やっぱり、すぐに話すことができました。そして二日目は、宮の里へ行きました。宮の里も初めてだったので、「どんな所なんやろ。」とか思っていました。着いてみたら、中はけっこう広くて、リハビリをしている人もいました。でも、そこにはいる人は、全員車イスの方でした。リハビリしている人の内容は、私達ができるような事でした。でも、車イスに乗っていると、やっぱり足の筋肉を全然使わないので、足にもりをつけて、足を引張っている人もいました。自分の力で歩けるようにしようとしている方もいました。私はそれまで「車イスつ

「いいな。」と思ってきました。なぜそう思っていたかというところからです。でも、それは、すごくまちがっていました。車イスに乗っている方はみんな「自分の足で歩けたらなあ。」と言っていました。私は、その逆で、「自分で歩くのめんどくさいなあ。歩くのいや。」そう思っていました。でも車イスに乗っている方々はみな早くから足が悪くて、歩けない人や、生まれた時から、歩けなくなっている人もいました。だから歩けなくて車イス生活をしている人は、私と逆で、「歩きたい。」と思っていました。私は、すごくいい生活をしているし、そんな車イスで歩きたくないなんて事を思っではいけないと思いました。私はたくさんさんの事を教えてもらう事ができました。勉強にもなりませんでした。私の考えていた事が、この二日間の福祉体験で変わるとは、全然考えていませんでした。いろいろな事をこの二日間の福祉体験で学びました。私は、これからもずっとずっと、ボランティアに参加したいです。自分で歩くのが嫌などと思っている人達に「自分の足で歩ける事がどんなに幸せな事なのか。」を伝えてあげたいし、それに自分の足で歩く事もままならない方々がいるのに、自分だけ自分の足で歩きたくないと思っている人には、私が体験したように、しょうがいのある方がいらっしやる宮の里へ行ってもらいたいです。私がこのボランティアをしようと思ったことは、みんな足などにしょうがいを持っている人たちなのに、みんな笑顔で笑っていたので、「しょうがいを持っている人でもこんなに笑っていられるんだなあ。」ということですよ。

車イスに乗っている方々は笑って、

「ありがとう。すごいうれしいな。」

と言ってくくださる方がほとんどです。またにこにこ笑っていらしたので、私も笑って、おしゃべりしたり、車イスの体験をしたりしました。さらに、車イスに乗っている方といっしょに車イスで散歩したりしていたら、雨が降ってきたけどこういう経験はなかなかできないので、体験ができてすごく私はよかったです。と思いました。



入選

『福祉について』

下外城田小学校 四年 堀江 咲良

私は今まで福祉という言葉聞いたことがなく、もちろん意味も知りませんでした。辞書で調べてみると、「多くの人々に同じようにあたえられるべき幸福」と書いてありました。それでもあまりわからなかったのでお母さんに聞いてみました。福祉には、高齢者や遺族、児童など社会的に弱い立ち場の人たちを支えることだと教えてくれました。

私は、それを考えてみると「お年寄りのおじいちゃんおばあちゃんを大切にすること」も、ひとつの福祉なのかなと思いました。

私の身近にいるお年寄りは、いとこの家にいるひいおばあちゃんです。このまえ100才になりました。私がいとこの家に行った時、ひいおばあちゃんがバスみたいな乗り物に乗っていくのを見たことがあります。お母さんにどこに行っているのか教えてもらうと、「老人ホーム」というところだと言っていました。デイサービスといって、体が弱っていかないように体そうをしたり、おふろに入れてもらったりごはんを食べたりして夕方帰ってくるそうです。お年寄りの方が集まってみんなで楽しむところかなと思いました。私はひいおばあちゃんがそんなことをしに行っているなんて知らなかったのでびっくりしました。

でもそのおかげでひいおばあちゃんはとても元気です。家族だけではお世話をするのは大変だけど、デイサービスで働く人

たちがいるおかげで、ひいおばあちゃんが行っている間、おばあちゃんたちは家の事ができるので助かっているそうです。これが高齢者福祉のひとつなのかなと思いました。

また、私のお父さんは、介護福祉士という資格をもって働いています。お年寄りがたくさん入所しているところで働いています。夜勤もあります。お父さんが夜いなくてさみしいなと思うこともありますが、お父さんは、夜もお世話を必要としているお年寄りの方のためにがんばっています。ごはんを食べさせたり、お風呂に入れたり、オムツ交かんもしているそうです。時々散歩につれていくこともあると言っていました。亡くなってしまうおじいさんおばあさんもいて、お父さんは何回か立ち合ったそうです。生活していくために働いて、家でお世話ができない家庭がふえてきているのもあり、老人ホームがたくさんできています。

お父さんの仕事はすてきだなと思います。こんなに近くに福祉の仕事をしている人がいるなんて、今まで感じませんでした。私も、もっと福祉の勉強をしたいと思います。そして、私もみんなも幸せになるくらしをめざしたいです。

入選

『別と考えない事』

玉城中学校 二年 俵 菜緒

私は学校の部活動で、吹奏楽部でがんばっています。バスケットネットという楽器を吹いて毎日がんばっています。玉城中の吹奏楽部は、いろんな所へ演奏しに行っています。地域の人によるこんでもらえるよう、良い演奏を聞いてもらうために練習しています。私達が奏でた音楽で地域の人や、家族、言葉が通じない人でも誰でも良い気持ちになって、楽しんでくれたらいいなと思っています。外国人や、病気にかかって言葉がしゃべれない人でも、音楽は誰でも楽しめるものだと思います。楽しんでもらうために、練習時間が五分や十分しかなくても、少しでも時間があれば楽器を吹いたり発声練習などをします。

顧問の先生が、「この部活はあいさつができてなんぼやから相手が気付いてなくても、自分からあいさつをしなさい。」と、部活の時間におっしゃっていました。そうだなと思いました。あいさつは自分からしなければいけないなと思いました。

私は去年の冬に体の不自由な人や障害を持った人が集まる所へ、演奏しに行きました。すごく緊張しました。どんな反応をされるかドキドキしながらいたけど、私達が演奏しはじめると、とてもりのりで、一緒に楽しんでくれました。すごくうれしかったです。私は最初、音に驚いて、怖がられないかとすごく不安だったけど、みんながそれぞれ、楽しんでくれているのを見てすごくうれしかったです。自分がこんなふうでは、だめだ

など思いました。障害を持った人が集まるところだからといって特別な考え方をするのではなくて、人間はみんな同じだから、みんな楽しんでむのがいいなと思いました。

老人ホームにも演奏しに行きました。おじいちゃんや、おばあちゃんが一生懸命、私達の演奏を聞いてくれて、うれしかったです。その時、みんなが笑顔で楽しそうにしてくれていたのので、この部活に入ってよかったと思うし、これからも、地域の祭りや行事などに行って私達の演奏で地域の交流などを深めていったり、楽しんでもらったり、いろんな人に聞いてもらえるようにがんばりたいです。

演奏を聞いてくださったお客さんが、私達ともそうだけど、見に来てくれたお客さん同士で知らない人でも一緒に楽しめたらいいなと思いました。私がお客さんだったら一人で楽しむのではなくて、二人以上や、一緒に楽しむ人が多い方が、一人で聞くよりもいいと思うし、交流にもなつて、みんなが明るくなつて、町が明るくなるといいなと思いました。町が明るくなると祭りなど、もっと楽しくなると思うし、雰囲気もよくて人も明るくなると思いました。こんな事が、自分の町でもっとあればいいなと思えました。

障害を持った人と、そうでない人を別と考えたり避けたり、違ふと思うたりしてはだめだと思いました。そんな考え方をするのなら、地域の雰囲気もよくならないし、町も明るくならないと思いました。

「しあわせの一行詩」 優秀作品

【小学生の部】

特選

休日、家族全員で買い物に行った。久しぶりに家族全員で手をつないで歩いた。手の平に伝わる温もりを感じた。

〈作品への想い〉

「手をつなぐ」のは少しはずかしい気持ちもあったけど、手と手をつなげば、「家族はつながっている」ということをあらためて実感できた。これからもずっとずっと仲の良い家族でいたいと思う。

下外城田小学校五年

山口

心里
こころ

元気でたまき委員会

ちいさなせんそうがおわった、とてもつらかった、もうこまるひつようがなくなった

〈作品への想い〉

いじめにあっていてそれがおわったから

田丸小学校六年

福原

佑太
ゆうた

お母さんにぎゅっとされた時が幸せだった。

〈作品への想い〉

お母さんがぎゅっとしてくれた時にぬくもりや優しさを感じた。

外城田小学校六年

藤原

実由 みゆ

《入選》

ぼくは、家族でいるのが一番幸せ。幸せだからこそえがおでいられる。家族は、やっぱりいいな。

〈作品への想い〉

家族みんなできてみんながえがおだったとき。

田丸小学校四年

山本

慶悟 けいご

《入選》

友達が、私を心配してくれる時。

〈作品への想い〉

私が運動会の組み立てで、おちたとき、10人ぐらいの子が集まってくれて、みんなに「大丈夫？」と言ってもらえて、とってもうれしかった。

外城田小学校六年

東谷

木葉

このは

陸上の大会で金メダルをとった。リレーチームの4人の笑顔がすごく輝いていた

〈作品への想い〉

陸上のリレーチーム4人で力を合わせてがんばった結果、金メダルをとれてうれしかったからです。

有田小学校五年

高瀬

大弥 だいや



【一般の部】

特選

愛してるよ早50年 認知症になっても忘れない一言あり
がとう

〈作品への想い〉

認知症になった夫に腹の立つこと多いけど、毎日の愛
してる、ありがとうの言葉にすぐわれています。

須崎 勝子

元気ですたまき委員会賞

元気ですか・・ありがとうと はじける様な言葉が交わさ
れた時

〈作品への想い〉

時折々の言葉をかけても返事が返ってこなかったと
きさびしい思いをしますけど、相手を思う元気ですか、
感謝の気持ちのありがとうが飛び交ったときホットし
ますので。

太田 完

昔、姑にしていたマッサージを今は嫁にしてもらおう。ああ、気持ちいいありがとう

〈作品への想い〉

仏教でいう、因果の理法というのであろうか、私が姑にしてあげていたように毎晩マッサージしてくれる嫁。ああ、ありがたい、もったいない

飯島 千津

平成二十六年 度

玉城町社会福祉大会

「福祉の作文」審査委員

(敬称略)

玉城町長

玉城町社会福祉協議会

会長

辻村 修一

玉城町民生委員協議会会長

玉城町社会福祉協議会

副会長

松田 敏己

玉城町生活福祉課

課長

中村 元紀

玉城町社会福祉協議会

事務局長

西野 公啓

「しあわせの一行詩」審査委員

元気ですたまき委員会

健康しあわせ委員会

社会福祉法人
玉城町社会福祉協議会

〒519-0433

三重県度会郡玉城町勝田 4876-1

TEL:0596-58-6915

FAX:0596-58-6916

発行：平成27年2月11日